

LETTER FROM COPENHAGEN
コペンハーゲン通信 PART VII
3

首都ヌークの街並み



カンガルスアーク空港にて

カンガルスアーク空港標識
 (ニューヨークとコペンハーゲンの中間)

デンマーク王国 DATA



人口582万人、面積4.3万平方キロ(≒九州)、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

2007年1月より本会事務局職員が在デンマーク日本大使館に出向しています。国際競争力や人々の幸福度が高い評価を受けるデンマークからの現地報告を不定期にお届けします。

小林 功人

在デンマーク日本大使館二等書記官
 (経済同友会事務局より出向中)



**グリーンランドは売り物ではないが
 ビジネス機会は歓迎する**

この見出しの文言は、2019年8月、米国トランプ大統領が購入に関心を示した際のグリーンランド政府の反応です。本年2月、このトランプ大統領による購入発言により一躍脚光を浴びたグリーンランドに、ついに出張で訪れる機会に恵まれました(在デンマーク日本大使館のフェイスブックページ<https://www.facebook.com/japanindenmark/>に写真を掲載しております)。

グリーンランドは世界最大の島(面積は日本の6倍)で、人口約5万6,000人、人口の大半は先住民族のイヌイットが暮らすという特徴を持つデンマーク王国の自治領です。グリーンランドは漁業が盛んで、実は日本の回転寿司店などで提供されているエンガワや甘エビはグリーンランド産も多く、グリーンランドの水産業にとって、日本は世界でも非常に重要な市場として位置付けられています。また、大昔をさかのぼれば、同じ祖先を持つ日本とグリーンランドの人々は、顔つきが似ていることもあり、お互いにどこか不思議な縁を感じる存在でしょう。

今回の出張は、当地を管轄されている日系企業の方々数人にも同行していただき、政府関係者、商工会議所、空港運営、航空、水産、海運、大学など、多岐にわたる組織を

訪問し、グリーンランド経済の多角化に向けて協力できることがないか、意見交換をしました。具体的には、2023年に拡張工事完了を予定している3空港の設備関連入札、レアメタル・鉄鉱石、石油の埋蔵可能性、氷河から解け出す水の商用化、水力発電プラントの増設、データセンター建設などのポテンシャルを認識しました。実際にデンマーク本国以外にも、米国、カナダ、オーストラリア、中国などの企業がこれらの事業に関心を示している状況が分かりました。

未開の地への新規参入には、さまざまな障壁やリスクが伴うので、一朝一夕には進みません。しかし、専門家による入念な調査、信頼できる海外パートナーとのリスクの共有など、手段はあるかもしれません。一方、グリーンランドが国際競争力を培っていく過程では、彼ら自身も国営企業から脱し、海外パートナーと共に国際スタンダードを取り入れることにも議論の余地があるでしょう。グリーンランドで出会った方々自身も、よく知った身内同士でのビジネスから一歩踏み出し、外国投資誘致を積極的に進める過程では、漠然とした不安を抱えているかもしれません。パートナーとして選んでもらうためには、先人が築いた良好な友好関係を維持しつつ、人と人との対話を通じた信頼関係の醸成が重要なのではないかと実感しました。